

大門だより

No. 1
(427号)

荒川区立大門小学校
校長 野澤 一代
令和2年 4月13日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「はじめまして」

校長 野澤 一代

木々の新芽、春の暖かな風は、子供たちの新たなスタートを応援してくれている、そのような気持ちになってきます。今年度より、荒川区立大門小学校に校長として着任いたしました野澤 一代です。学級担任最後を同じ尾久地区で勤務し、またこの荒川区に戻って校長職をできることを大変幸せに思っております。大門小学校の子供たちのために、地域のために尽力してまいります。よろしくお願いたします。

昨年度末からの新型コロナウイルスの感染拡大防止のための休校措置対応等にご協力いただきありがとうございます。引き続き、新型コロナウイルス感染症については、状況が変化することが考えられることから、荒川区教育委員会と連携し、随時、情報提供に努め、対応についてお知らせしてまいりますので、御理解・御協力をお願いいたします。

学校では、日常において、次の3つの条件が同時に重なることを徹底的に回避するとともに、感染症対策を徹底し、児童等がよく触れる箇所の消毒等を実施しながら教育活動を行います。

- 換気の悪い密閉空間
- 多くの人密集
- 近距離での会話や発声

つきましては、ご家庭においても、ご家族全員で以下の点にご協力をお願いします。

- ① 手洗いやうがい、咳エチケットなどの基本的な感染症対策を徹底してください。
- ② 日常の健康管理（十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事等）に取り組んでください。

9年前の東日本大震災のときのことを思い出します。私たちはその後「自分たちは今、何ができるか、何をしなければいけないのか」を考えて日々過ごしてきたように思います。私は学級担任最後の年でした。地震に揺れる校庭に子供たちと避難しているときです。クラスの男子の一人が避難指示を出している私に声を掛けました。

「先生、先生の子供は大丈夫なの？」

「大丈夫よ。きっとみんなと同じように避難していると思うから。」

自分の一大事の中で、私の家族の心配をしてくれる・・・。私はこのときの児童の安堵の表情を忘れずにいます。

新型コロナウイルスの感染をこれ以上拡大させないためにも、私たち一人一人が「今、何ができるか、何をしなければいけないのか」、「人を想うとはどういうことか」を考えて日々を過ごしていかなければならないと考えます。

一般的に「コロナ疲れ」という言葉が流れてきました。今までどおりの生活が送れないことは、大人でも子供でもストレスになります。家の中の過ごし方、家でしかできないこと、家族の役割分担など一度家族で「家族会議」を開いて話し合ってみたらいかがでしょう。そのときの司会や記録はお子様によらせてあげてください。学校での「話し合い活動」の力が発揮されることでしょうか。また、子供だからと思わず、こんなときこそ、家族のために何か役に立ってもらいましょう。家族の力になっていると自分で感じることは、この先の自信につながります。

大門小学校の1年間がスタートします。今年度も大門小学校の教育活動に御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。